

## 2026年度 一宮市デジタル田園都市構想推進会議 議事録(要旨)

- ・日 時:2026年8月 21日(金) 午前 10 時 30 分～11 時 35分
- ・会 場:一宮市役所本庁舎6階 特別会議室
- ・出席者:委員 14人 ※欠席委員4人
- ・傍聴者:0人

### 1 開会

新委員の紹介

総合政策部長あいさつ

- ・ 自治体でも人手不足が深刻化してきており、DX・AX が急務となっている。
- ・ 一宮市では、「国・地方デジタル共通基盤推進連絡協議会ワーキングチーム」、「地方自治体における AI トランスフォーメーション研究会」へ参加している。

### 2 議事

#### (1) 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略で取り組む事業の進捗状況等について

○事務局から資料1、2について説明

○議題1について委員からの意見と事務局回答

▽委員からの意見

- ・ 放課後児童クラブについて、宮西連区では、建物の中に児童を無理やり押し込んで待機児童をゼロにしている。このような状況を市は把握しているか。  
どこの連区も児童が増えていると思うので、建物の増築・改築を検討してほしい。

▼事務局回答

- ・ 放課後児童クラブは、保護者の就労条件等がない放課後子ども教室と一体的に推進している。放課後子ども教室の定員は、空き教室の調整などをしながら増やしている。
- ・ ご意見は担当課に伝える

▽委員からの意見

- ・ 待機児童が発生しているのは今伊勢地区のみである。  
例えば葉栗連区では、利用料が高くなったことや児童数が減少していることもあり、待機は出ておらず、むしろ余裕がある。  
今伊勢地区の問題は考えていかななくてはならないが、市内全域で待機児童が発生している訳ではない。

#### ▽委員からの意見

- ・ 児童1人あたりの面積など、条件はどうなっているのか。

#### ▼事務局回答

- ・ 当然条件は満たしているが、利用数が増えている児童クラブがあるのは事実である。今伊勢地区は、おそらく子どもの数の減り方が緩やかであることと、物理的な場所がないことが原因である。  
宮西連区についても、基準に則ってはいるが、ご意見があったことは担当課にお伝えする。

#### ▽委員からの意見

- ・ 雇用促進奨励金の交付対象者数が減っていることについて、この奨励金は、市内に新しく事業所を設けるあるいは拡張するというのが前提である。事務局の説明にあったように雇用情勢の悪化もあると思うが、企業から、そもそも市内で新たに事業所を拡張できる土地がないと聞いているので、土地の確保をお願いしたい。  
尾張一宮 PA にスマートインターチェンジができて、大規模な土地開発が行われるので、企業の希望が叶うような土地開発の方法を、市主導で進めてほしい。
- ・ 土地開発があった時は用途整理をするが、そこに来るのは企業任せになっている。例えば市でこの場所にはこういう企業を誘致したいなど、ビジョンを持って進めていただきたい。例えば、インターチェンジの近くに物流倉庫が多くできているが、物流倉庫ではなかなか雇用が生まれない。

#### ▼事務局回答

- ・ 工場を大きくしたくても市内に土地がないという意見が、商工会議所へ届いていることは分かったので、スマートインターチェンジ付近の開発の件も含めて担当課へお伝えする。

#### ▽委員からの意見

- ・ 一宮市は市街化調整区域が多い。地区計画によって、配送センターくらいしかできないようになっているので、そういった面を考慮しながら市街化区域を増やし、雇用を増やしてほしい。
- ・ 春日井市は企業を誘致する課があり、雇用が生まれる産業を一生懸命やっているの  
で参考にしてほしい。

#### ▽委員からの意見

- ・ 手続きのオンライン化率について、この率の増加によって使いやすくなったり、利用者が増えたりしたということはあるのか。

▼事務局回答

- ・ 全体的には、利用者数が増えたということはないように思う。
- ・ 例えば、政策課で実施している、総合計画に関するワークショップでは、20 件程の申込があったが、そのうち電話申込は 1 件であり、オンラインの使用は増えている。また、市役所が閉まっている夜間の申込もあるため、市民の利便性は向上していると考えている。

▽委員からの意見

- ・ 2年程前にデジタル庁が実施した、市町村 DX 推進状況の調査では、一宮市は、「子育て介護に関する26の手続き」のオンライン化率で100%を達成、「よく使う32の手続き」で54%達成となっており、県内でもおおよそ半分くらいのところに位置している状況である。

▽委員からの意見

- ・ 男性の育児休業取得率について、現状値が 70.1%であるのに、目標値が 50%なのはなぜか。

▼事務局回答

- ・ 国は、2025 年度で 50%、2030 年度で 85%という目標を掲げている。それになって 50%としている。  
あと 2 年の計画なので、目標を見直すことはしないが、この数値を保てるような施策を続けていきたい。

▽委員からの意見

- ・ 一宮市は男性の育児休業取得率が高いが、父親と子どもが遊べる施設が少ない。特に今年の夏は暑く、公園には行けないので、室内で遊べる施設を考えてほしい。

▽委員からの意見

- ・ 就職フェアの参加者数が減っているが、要因はあるか。

▼事務局回答

- ・ 2024 年度から大きな変更はしておらず、明確な要因はつかめていない。  
一般論では、人手不足であるため、以前よりは仕事が見つかりやすい。また、仕事を探す方法も、SNS などに変わってきているのではないかと考えている。

▽委員からの意見

- ・ 数値目標の「社会増減」は外国人を含むのに対し、KPI の「25～49 歳の人口の社会増減」は外国人を含まない。統一した方が比較しやすいと思うが、なぜこうなっているのか。

るのか。

外国人を含む「25～49 歳の人口の社会増減」の値は分かるか？

▼事務局回答

- ・ 市の人口動態で集計している項目を活用して KPI を設定したため、数値はすぐには出せない。
- ・ 数値目標と KPI で差があるのは確かに問題である。また、今後、外国人の数は考えていかななくてはならないため、次の計画では考慮したい。

▽委員からの意見

- ・ 計画を策定する時に、「社会増減」と「転入者数」には外国人を足したが、「25～49 歳の人口の社会増減」には足していなかったという経緯がある。

▼事務局回答

- ・ 次の計画では、外国人を含むか含まないかを揃えたい。

▽委員からの意見

- ・ 外国人の問題はこれから話題になると思うので、含めた方が良いのではないかな。

▼事務局回答

- ・ 外国人を含む場合と含まない場合を掲載するなど、分かりやすい指標を検討していく。

▽委員からの意見

- ・ 「転入者数」は単年度だけの指標だが、「25～49 歳の人口の社会増減」は、ライフサイクルや年代ごとの特徴が見える数値である。例えば、25 歳の時に就職して東京に出ていくから少なくなるとか、結婚して戻ってくるとかなどの流れをみると良い。そうすると外国人は含まなくても良いのではないかな。ただし、使い方は考えた方が良い。

▽委員からの意見

- ・ いちのみや応援寄付金の寄付件数の集計方法が変わったが、目標値はこのままでよいのか。なぜ集計方法が変わったのか。

▼事務局回答

- ・ 集計方法が変わったのは、システムの変更による。総合戦略の数値としては、今までの方で集計したもの(おおよその数)を掲載する。

▽委員からの意見

- ・ イチ＊ビルの影響などはどう感じているか。

▼事務局回答

- ・ 現時点では、まだ把握できていない。

▽委員からの意見

- ・ 中心市街地の中で、どういう影響があるのかはまだ把握できていないが、ないよりはあった方がよい。1年半程空き店舗だった時期は、本町商店街にも相当ダメージがあったと感じている。  
まちは、人が集まる施設があればあるほど良い。補助金をもらってやっているイベントもあるが、うまくいかない部分もある。
- ・ 市民が中心市街地に来てくれるようにするには、駐車場・自転車の問題がある。  
本庁舎の駐車場は無料にしないといけない。駐車場に停めて名古屋に行ってしまう人の対策は、1時間や2時間だけ無料にするなど、施策として考えればよい。これを推進するのは役所である。  
自転車について、塾に来る子どもたちは駐輪場がないので道路に停めている。警察はダメではないかと言っている。こういう問題は行政に考えていただきたい。

▽委員からの意見

- ・ 駅前で、みずほ銀行の撤退があったが、そういった場合の跡地はどうするのか。またテナントが老朽化しているという印象を受ける。建物の建て替え、魅力の向上、空き地の利活用、テナント需要の喚起なども市が関与していくと中心市街地の活性化につながると感じている。

(2) 国の交付金等を活用した事業について

- 事務局から資料3について説明
- 議題 2 について委員からの質問

(3) 閉会

- 次期総合戦略は、2028 年から始まる総合計画と一体的に策定する方針を説明